

目 次

第 28 回学術集会 臨床委員会企画シンポジウム「ウマ獣医療における抗菌薬療法」

平成 27 年 12 月 1 日（東京大学 農学部）

座長：帆保 誠二（鹿児島大学）

開催のねらい／はじめに	1
【基調講演】人における抗菌薬の使い方・考え方	森澤 雄司 3
【パネリストによる発表】	
1. ウマの細菌感染症の主な原因菌と薬剤感受性	木下 優太 12
2. JRA における競走馬の抗菌薬治療について	黒田 泰輔 18
3. 米国におけるウマの抗菌薬療法の実際	石原 章和 28
4. 生産地における抗菌薬療法の実態と課題	井上 裕士 38
5. 競走馬の腸内フローラと抗菌薬	丹羽 秀和 44

特別記事

2015 年臨床委員会講演会・セミナー・実習について	間 弘子ほか 52
Journal of Equine Science Vol. 27 No. 2, June 2016 和文要約	56
編集委員会議事録要旨	58
お知らせ	59
協賛団体名・賛助会員名簿	60
Hippophile 投稿に関する基準	61
編集後記	

Hippophile No. 65

- 編集委員 -

編集顧問	林 良博（東京大学）	
編集担当常任理事	田谷 一善（東京農工大学）	
編集委員長	楠瀬 良（日本装蹄協会）	
編集委員	相川 貴志（地方競馬全国協会）	永井富美子（エディター）
	石田 信繁（JRA 競走馬総合研究所）	沼田 恭子（NPO 法人引退馬協会）
	近藤 誠司（北海道大学）	三浦 暁子（エッセイスト）
	末崎 真澄（馬の博物館）	守谷 久（北海道新聞社）
	杉本 篤信（競馬保安協会）	山口 洋史（JRA 馬事公苑）
	関 正喜（北海道新聞社）	山野 浩一（作家）

表紙絵：騎手（The Jockey）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901）1899 年 49.8×34.1 センチ多色刷り
リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。

日本ウマ科学会

Japanese Society of Equine Science